



澤

古今の俳諧俳句に本体を温ね
東西の詩文学芸に本質を照らす
只管に詠い真摯に読み
闊達なる一座を建立せん

平成24年2月号
通巻第143号

第百三十回澤通信句会のお知らせ……………4

高橋睦郎 新豎題 第二十六回……………8

小澤 實 象山地下壕 十五句……………10

澤句会二賞発表……………12

潺潺集 小澤 實選……………14

ギヤマンガラス 児玉史湖 紫蘇の実 小日向美春

山河 宮田應孝 根元 竹村翠苑

手斧目 加賀雪絵 肌寒し 中野文夫

ゆさぶり抜き 原 拓也 棒 宮澤八重子

きうと音 天野正子 身上ばなし 川上弘美

屋根草 長谷川照子 るるるん 宮原可里江

板戸 水田晴子 在所 水谷り得子

詩文学芸書を読む

石川美南歌集『離れ島』『裏島』 大谷道子……………38

総合誌俳句鑑賞 「俳句」十二月号 生井敏夫……………40

俳句結社誌を読む 「柳」七・八月号 磯貝一沙……………42

俳句ホームページを読む 「草藏」今村 豊……………44

俳句を豊かにするもの

松代再訪の記 石田秀子……………46

神のお在す岳 小日向美春……………47

定例句会の秀句 堀田季何……………48

通信句会の秀句 宮川それいけ……………50

潺潺集巻頭作家エッセイ 山口方眼子……………52

澤集巻頭作家インタビュー 田沼和美……………53

同人代表句 明石はま子／村井正子……………54

同人一句鑑賞 飯田豊子／大文字明成……………55

澤衍……………56

特集／第十一回「澤」秋季鍛錬会
参加記

歴史の町・信州松代 鈴木尚子……………20

豊かな歴史の地 松代 岡本春水……………22

六連銭の町 瀬戸洋子……………23

本質に向き合う 竹岡たつ子……………24

秋季鍛錬会への準備と吟行の記録 宮下晴吾……………25

第十一回「澤」秋季鍛錬会作品集……………26

鍛錬会係分担表……………31

澤俳句鑑賞 141

高室有子……………32

村上佳乃……………34

窓

俳書を読む

河野 薫『あざみ日和』／あざ蓉子『天気雨』

池田瑠那……………36

澤四十句 小澤 實選……………58

選後独言 幕末という時代 小澤 實……………60

澤集 小澤 實選……………62

堀田季何／駒野由紀子／岡本春水／生井敏夫／瀬戸洋子／

大谷景子／小泉和子／森美代子／浅川裕子／吉田邦幸／河

辺柚里／長澤庸子／新澤 岳

新入会員……………91 消息……………92

俳句を豊かにするもの原稿募集……………93

新同人候補者推薦その他……………94

正誤表……………95

澤俳句叢書一覧／1月号発送報告……………96

購読料更新のお知らせ／第136回定例句会のご案内……………97

第134回定例句会作品 小澤 實選……………98

第128回通信句会作品 小澤 實選……………100

澤基金募集のお願い／澤基金応募者芳名……………103

雑誌「澤」購読のご案内／投句のご案内……………102

澤句会・カルチャー一覧……………104

広告……………105 後記……………110

表紙デザイン・山口信博＋大野あかり 題字・永田耕衣

第十回通信句会賞

パソコンの指紋認証事務始
押絵籬裏地明治の新聞紙
堰流れ行く花屑や片寄らず
放射線量測る継子の尻拭ひ
背泳の君ぢぐざぐと遠ざかる
網底の開きて秋刀魚なだれ落つ
この冬も越します婆のスクワット
安納芋割れば金色手に熱き

笠井たかし
石崎鬼門
川崎榮子
周藤迪之相
大谷道子
安西泰子
小泉和子
小川正廣

第十回定例会賞

野沢菜漬軽く搾りぬ桶の中
炊飯器に作るケーキや日永なる
採り置きし種蒔く？はてな 札も立て
竹纖維百パーセントクールビズ
決然と虎魚唐揚げ箸にばらす
大羊歯を打ちて男滝の落ちにけり
泣き相撲終わり額に朱印押す
我にありし三度の家出葱刻む

竹村翠苑
高取恒子
原島千代子
新島万里子
磯貝一沙
渡邊のぶお
細野里五郎
村上佳乃

平成二十三年の通信句会・定例会賞の特選句から再選した。
特に手応えのあつた句である。
新春定例会懇親会の席上、授賞式を行った。

澤

平成24年2月1日発行

平成12年10月31日第三種郵便物認可

澤 俳句会

頒価 1,200円